



No.37

UT University Forests News

科学の森ニュース

March 10, 2007

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

師走の寒さもなんのその 大盛況！東大演習林影森祭

秩父演習林

平成18年12月10日（日）東大演習林影森祭を開催しました。「地元の皆さんに演習林を知ってもらおう」と平成17年度から始めて今回が2回目になります。今回もミニ門松・リース・クラフト作りや、丸太切り・木登り体験、苗畑巡り、林業機械展示、クイズオリエンテーリングなど盛り沢山の内容としました。甘酒・そばがきの無料配布、バームクーヘンを目の前で作っての試食も大好評でした。また演習林利用者が所属するフォルクローレグループの生演奏も祭をいっそう盛り上げてくれました。127人の来訪者も秩父演習林サポーターも職員もそれぞれが楽しめた祭になりました。



グルーポ・ティエラの皆さんによるフォルクローレの演奏

「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF形式）は東京大学科学の森教育研究センター（演習林）のホームページからダウンロードすることができます。（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>）

自然ガイド誕生！

樹芸研究所

南伊豆の豊かな自然を生かした地域づくりと青野研究林を活用した自然体験プログラムづくりを目指した「青野の森自然ガイド養成講座」が、静岡県賀茂地域支援局主催により青野研究林にて開催されました。伊豆一円から自然ガイドを志す 22 名が集まり、平成 18 年 9 月から 12 月にかけて全 6 回の講座で自然ガイドの知識や技術を学びました。

卒業試験は一般市民を対象にしたガイドの実演でした。勉強の成果を披露し、「ガイドの体験を交えた説明が面白かった」、「一生懸命さが伝わった」など、合格点をいただけたようです。

今後、青野研究林を活用した自然体験などで活躍されることを期待します。



みんなでニッケイの香りをかいで「ん〜懐かしい香り！」

秋の一般公開開催

千葉演習林

平成 18 年 11 月 23 日～12 月 3 日の土休日(延べ 5 日間)に猪ノ川溪谷の一般公開が行われました。今年は全体的に天候に恵まれ、また例年より紅葉が遅れた影響で、後半にも多くの入林者が訪れました。おかげで初日以外は全て 2 千人を超える入林者が訪れ、ワンシーズンで始めて 1 万人を突破しました！今年はガイドブックに加え演習林内の景色や動植物の写真を使ったカレンダーの販売も行い好評でした。

また、緊急用に NTT の仮設電話の設置も可能となり、諸連絡や対応がスムーズに出来ました。幸いにも救急車を呼ぶような事がなくホッとしています。



受付の様子（ガイドブック販売しています！）

本の紹介

おもしろ研究 ちちぶの森

税込 1,200 円
全 180 ページ



かつて「開かずの国道」と呼ばれた国道 140 号線。その開通で人々の生活や自然環境はどう変わったか？最新の研究をもとにやさしく紹介。

目次

- 序章 東京大学秩父演習林と秩父山地
- 第 1 章 秩父山地の歴史
- 第 2 章 秩父山地の自然
- 第 3 章 秩父山地の社会
- 第 4 章 秩父山地の大学の森
- 終章 科学の森のフロンティア

購入方法

御名前、連絡先、郵送先、購入冊数を明記し、必要な金額（1 冊 1,200 円 現金書留もしくは郵便小為替でお願いします）を同封の上、下記申込先まで郵送して下さい（郵送料は負担します）。

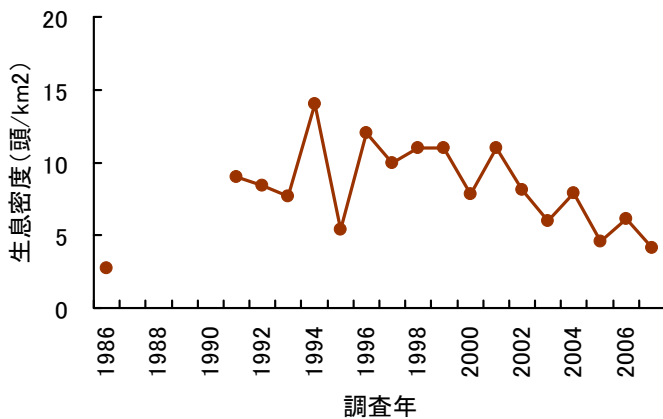
申込・問い合わせ先

東京大学秩父演習林
〒368-0034 埼玉県秩父市日野田町 1-1-49
Tel. 0494-22-0272 Fax. 0494-23-9620

各地でニホンジカによる森林被害が問題になっています。例えば房総半島南東部に位置する千葉演習林は被害歴が長く、スギ・ヒノキ植栽苗の食害や天然林における下層植生の減少、さらに樹種構成の変化が見られ、教育研究上にも重大な影響が出ています。埼玉県荒川上流に位置する秩父演習林では天然林のウラジロモミへの食害や下層植生の減少が見られます。南伊豆にある樹芸研究所でも、近年シカが最も好むと言われるアオキの食害が始まり、今後シカの増加が懸念されます。そこで、シカの生息密度の変化を的確に把握し、健全な教育研究林の育成管理や周辺地域全体の環境保全に役立てるため、シカによる植栽苗の食害や森林植生の採食の進行状況が異なる3つの演習林で、平成18年10月～翌年1月にかけてニホンジカ生息数調査を行いました。千葉では17回目、秩父は2回目、樹芸は初めての調査となります。調査方法としては、秩父は「追出法」、千葉、樹芸は「区画法」を用いました。「追出法」は10数名の調査員が調査地の外周りを一定間隔で取り囲み、ゆっくり絞り込むようにシカを追い出し、シカを直接カウントする方法です。「区画法」は調査地をいくつかの区画に分け、それぞれ1～2名の調査員が一斉に割り当てられた区画に入り、シカを直接目視する方法です。その結果、千葉は3ヶ所574haで35頭、秩父は大血川流域38haで7頭（入川、滝川流域は64haで0頭）、樹芸はクス林45haで8頭（天然林など2ヶ所は83haで0頭）を目視しました。このような調査には多くの協力者が必要であり、学生・院生等の野外動物生息数調査の教育・実習の場としても有効に活用されています。今回の調査は延べ156人が参加し、そのうち演習林外から大学（院）生が13名、大学教員、ボランティア会、NPOなどからの参加が26名でした。今後も調査者の安全を第一に、精度の高いデータの収集に努力していきますので、引き続きご支援をお願いします。



ニホンジカ（可愛いけれど、増えすぎると「有害獣」になります。）



千葉演習林におけるシカの生息密度の推移
(1995年から有害獣駆除を実施、生息密度の低下が見られます)

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせ下さい。

12月

- 2, 3日 秋の一般公開(千葉)
- 5日 稲梓小学校 森林教室(樹芸)
- 9日 野鳥の巣箱をかけよう!(千葉)
- 9日 青野の森自然ガイド養成講座(樹芸)
- 20～21日 水位データを流量データに換算し、日流出量を計算する技術についての講習会(愛知)

1月

- 11～12日 シカ生息密度調査(千葉)
- 16, 17, 23日 シカの調査始めました(樹芸)
- 27日 公開講座「海岸の森を歩こう、植えよう」(愛知)

3月

- 27日 公開講座「春を待つ樹木たち」(愛知)

4月

- 14, 15, 21, 22日 春の一般公開(千葉)
- 14, 17日 自由見学日 大血川地区(秩父)

5月

- 12, 15日 自由見学日 栃本地区(秩父)
- 未定 公開講座(愛知)

6月

- 上旬 市民公開セミナー「樹海めぐり」(北海道)
- 16, 19日 自由見学日 大血川地区(秩父)

7月

- 17日 自由見学日 大血川地区(秩父)
- 下旬 夏の森林教室(千葉)

フジザクラ (マメザクラ)

バラ科 サクラ属
学名 : *Prunus incisa*

富士演習林

花が小さいことからついたと言われる「マメザクラ」が正式な名前です。その一名(別名)としてフジザクラと呼ばれますが、フジマツ(カラマツの別名)と同様にフジの名前を冠するのは、この樹木の分布の中心がある富士山麓の地域で親しまれてきたことの証です。また、わが国の象徴とも言える“フジ”と“サクラ”を組み合わせたこの名称は、一名とは言え、数ある樹木の名称の中でもなかなか高雅なものと言えましょう。そのほか、四月下旬から五月上旬にかけて花が小粒で下向きにはじらうように咲くので、“乙女ザクラ”とも呼ばれ、何とも愛らしい樹木です。



北欧の木材企業にとって森林認証はなぜ重要なのか

北海道演習林 尾張 敏章

森林認証とは、生態的、社会的、経済的に持続可能な森林経営を第三者機関が評価・認証する制度です。2006年5月現在、世界の森林面積の約7%が認証を取得しており、認証森林から生産された木材の加工流通認証(CoC認証)の発行数も7,200に達しています。世界的に普及が進む森林認証



森林認証のロゴマークが入った
フィンランドの製材品

ですが、木材企業はなぜ認証を取得し、どのような利益を得ているのでしょうか。欧州市場における森林認証材の主要な供給国であるフィンランドでの調査から、次のような結果が得られました。①CoC認証取得企業は、企業の社会的責任の明示、市場シェアの維持、既存市場における製品の販売といった点で森林認証が重要と考えている。②CoC認証取得企業が認証から得た主な利益は、既存顧客の維持や満足度の向上、社会的評価の向上である。③ほとんどの企業が認証製品から価格プレミアムを得られず、認証取得が収益性の改善には直接つながっていない。フィンランドの木材企業にとって森林認証は、環境問題に敏感なイギリスやドイツ、オランダなどの顧客をつなぎとめ、満足を与えるためのツールといえそうです。

参考文献 : Owari et al. (2006) Forest Policy and Economics 9: 380-391

科学の森ニュース (UT University Forests News) 第37号 (No.37)

発行日 平成19年3月10日

発行人 下村彰男

編集人 山本博一

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2007@uf.a.u-tokyo.ac.jp